

## 1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は冬型の気圧配置となっている。850hPa で北～東日本に $-9^{\circ}\text{C}$ 以下、西日本に $-6^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気が流入している。寒気の影響により、北日本と東～西日本の日本海側では降雪しており、東北地方の多い所で3時間で9cmの降雪量を観測している。
- ② 日本海には地上のシアーラインがあつて、北陸地方を指向している。また、関東の南～南東海上にかけて、シアーラインがのびている。シアーライン周辺の東～西日本の日本海側の海上では、1時間20mm程度の降水、伊豆諸島付近では1時間5mm程度の降水を解析。

- ③ 冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風が吹いて、波が高くなっている所がある。

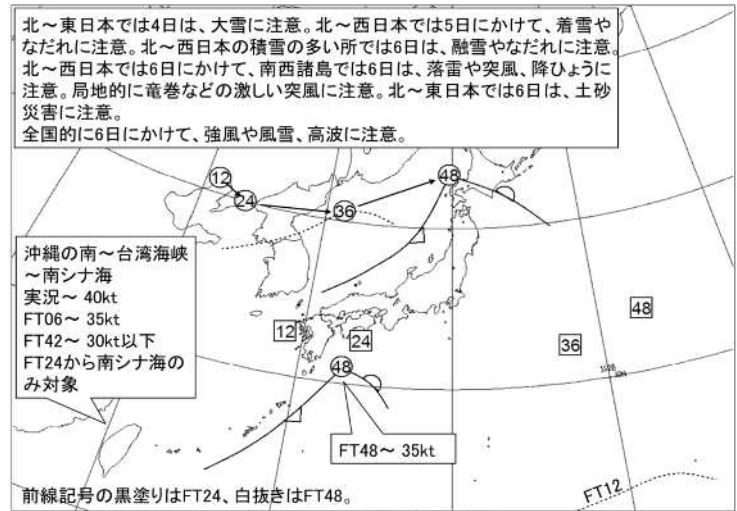
## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 500hPa で $-33^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気を伴う5220～5400mのトラフが北～東日本を通過し、冬型の気圧配置は次第に緩む。850hPa で東日本 $-9^{\circ}\text{C}$ 以下、西日本 $-6^{\circ}\text{C}$ 以下の寒気の影響を4日まで受ける見込み。北～東日本では4日は、大雪による交通障害に注意。北～西日本では5日にかけて、着雪やなだれに注意。また、北日本では、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北日本では4日は、落雷や突風に注意。
- ② 2項①の冬型の気圧配置が緩み、1項②のシアーラインも次第に不明瞭化するが、目先は上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。東～西日本では4日は、落雷や突風に注意。
- ③ 4日夜までに低気圧がポツ海付近で発生し、5日夜にかけて前線を伴いながら日本海に進む。6日は発達しながら北日本を通過し、サハリン付近に進む。低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。また、6日朝には四国の南に前線を伴った低気圧が発生し、6日夜にかけて東海道沖に進む。北～西日本では5～6日は、南西諸島では6日は、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。北～東日本では6日は、土砂災害に注意。850hPa  $0^{\circ}\text{C}$ 線が東北地方まで北上、下層の気温が上昇し、降水による雪解けが進む。北～西日本の積雪の多い所では6日は、融雪やなだれに注意。
- ④ 冬型の気圧配置や2項③の低気圧の影響で、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波が高くなる所がある。全国的に6日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：北海道・東北30、北陸15cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島・沖縄3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図